

地球にやさしいオンリーワンを世界に届けるMORESCOグループ

第66期決算説明

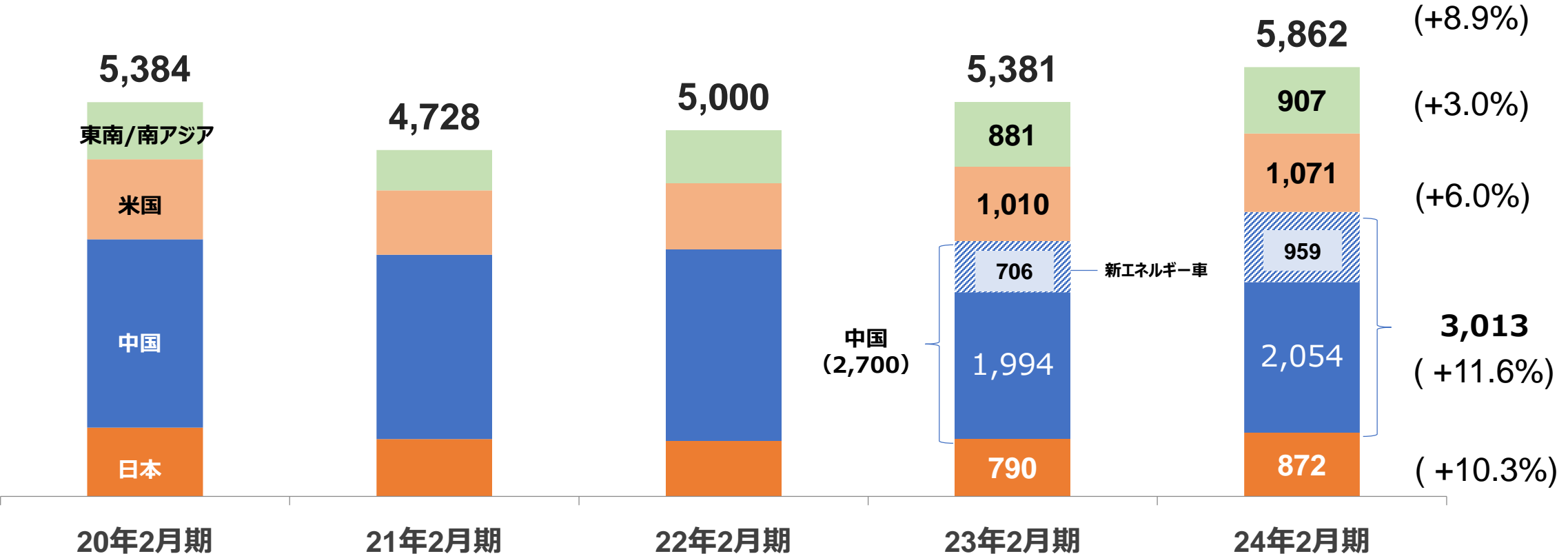
(2023年3月1日～2024年2月29日)

東証スタンダード 5018 (石油・石炭製品)

2024/04/22

当社拠点所在地域における自動車生産台数推移

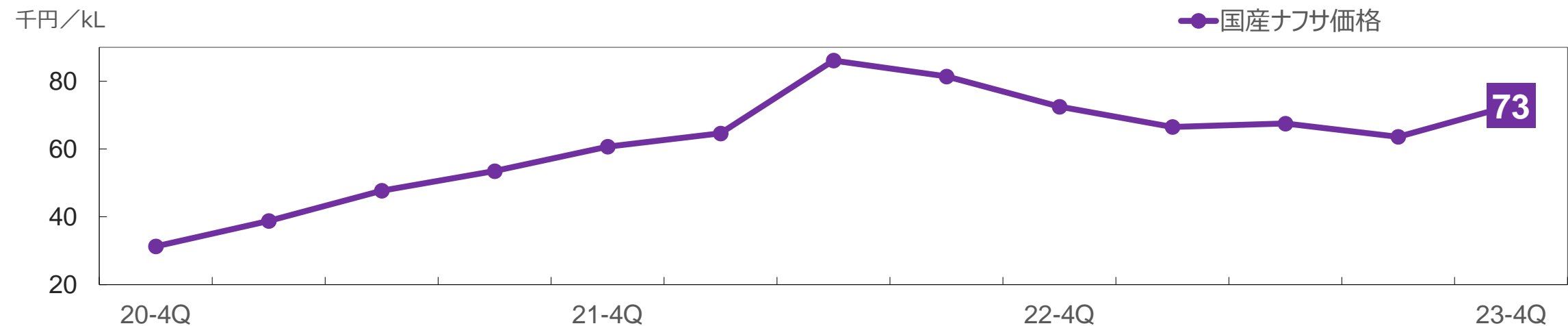
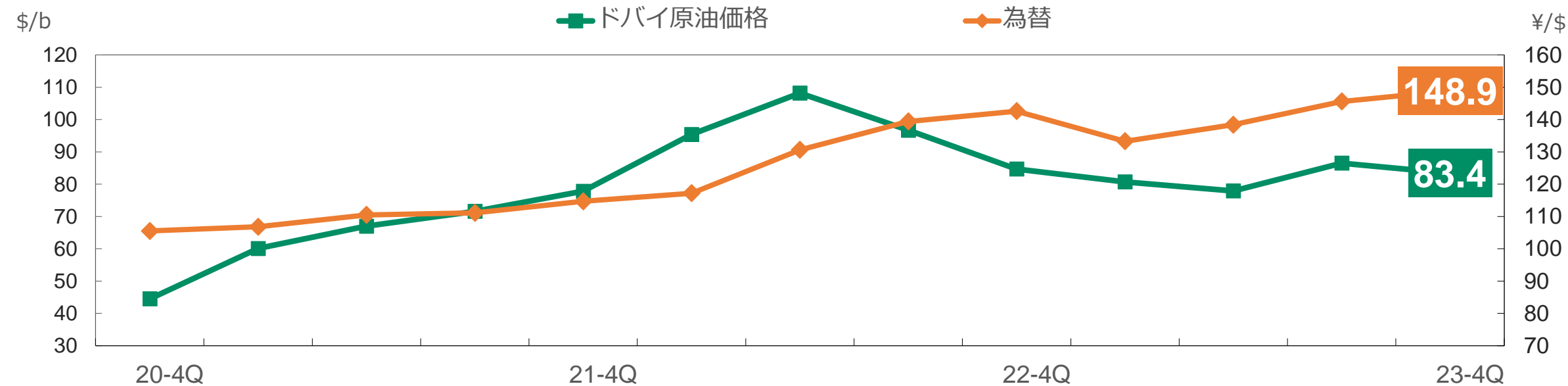
単位：万台
(対前期比%)



出典：マークラインズ社の公表データに基づく自社作成

注1：当社の会計年度に基準した集計データ（日本：3月～2月 海外：1月～12月）
注2：東南/南アジアは、当社拠点にあるタイ、インドネシアとインドのみ集計対象

当期の経営環境-原油・為替・ナフサ価格※推移



※ 2024年2月期の平均為替レートは141.2円/ドル
原油・為替・ナフサ価格は3ヵ月平均値

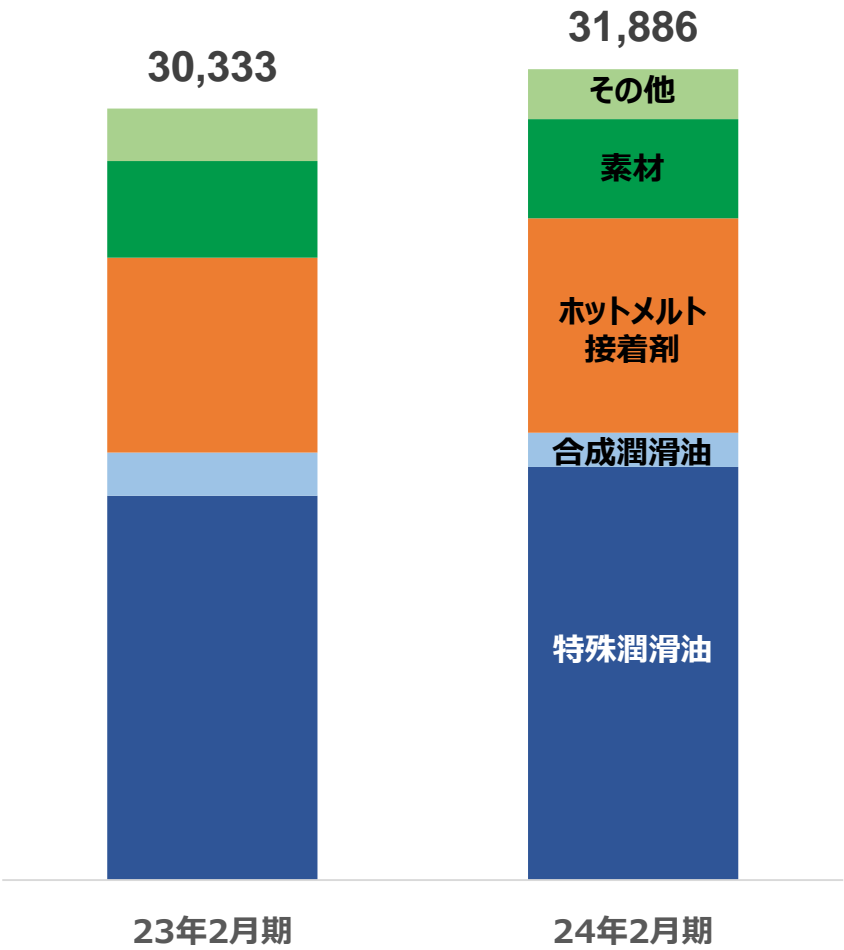
販売価格の是正と海外販売数量の増加により増収増益、関連会社の完全子会社化に伴う特別利益を計上

(単位：百万円)	23年2月期	24年2月期	前期比
売上高	30,333	31,886	+5.1%
売上総利益	8,129	8,984	+10.5%
販管費	7,606	7,759	+2.0%
営業利益	523	1,225	+134.2%
営業外損益	523	601	+15.0%
経常利益	1,046	1,826	+74.6%
税引前利益	1,046	2,055	+96.5%
当期純利益 ※	615	1,283	+108.8%

※ 親会社株主に帰属する当期純利益, 以下同様

自動車関連と衛材関連製品の販売が堅調に推移した一方、データセンターへの投資冷え込みが継続

(単位：百万円)	23年2月期	24年2月期	前期比
特殊潤滑油部門	15,105	16,247	+8%
ホットメルト 接着剤部門	7,664	8,430	+10%
合成潤滑油部門	1,703	1,337	▲22%
素材部門	3,793	3,909	+3%
その他	2,068	1,963	▲5%
売上高合計	30,333	31,886	+5%



【売上高】前年比**7.6%増**（16,247百万円）

【売上数量】前年比**1.5%増**

（単位：百万円）

➤ **DC（ダイカスト）油剤**

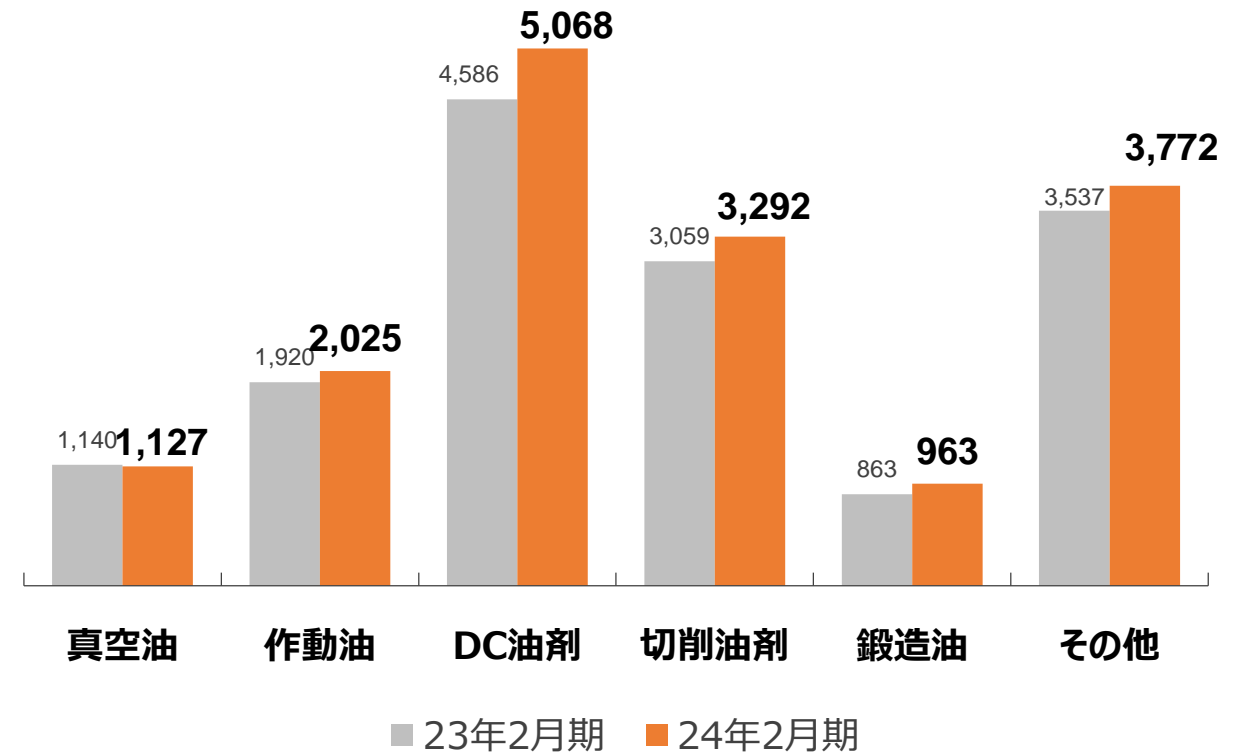
自動車生産台数増に加え、少量塗布型
離型剤の出荷が増加

➤ **切削油剤**

東南/南アジアおよび北米の新規増販

➤ **真空油**

中国向け輸出が低調



【売上高】前年比**10.0%増**（8,430百万円） 【売上数量】前年比**8.0%増**

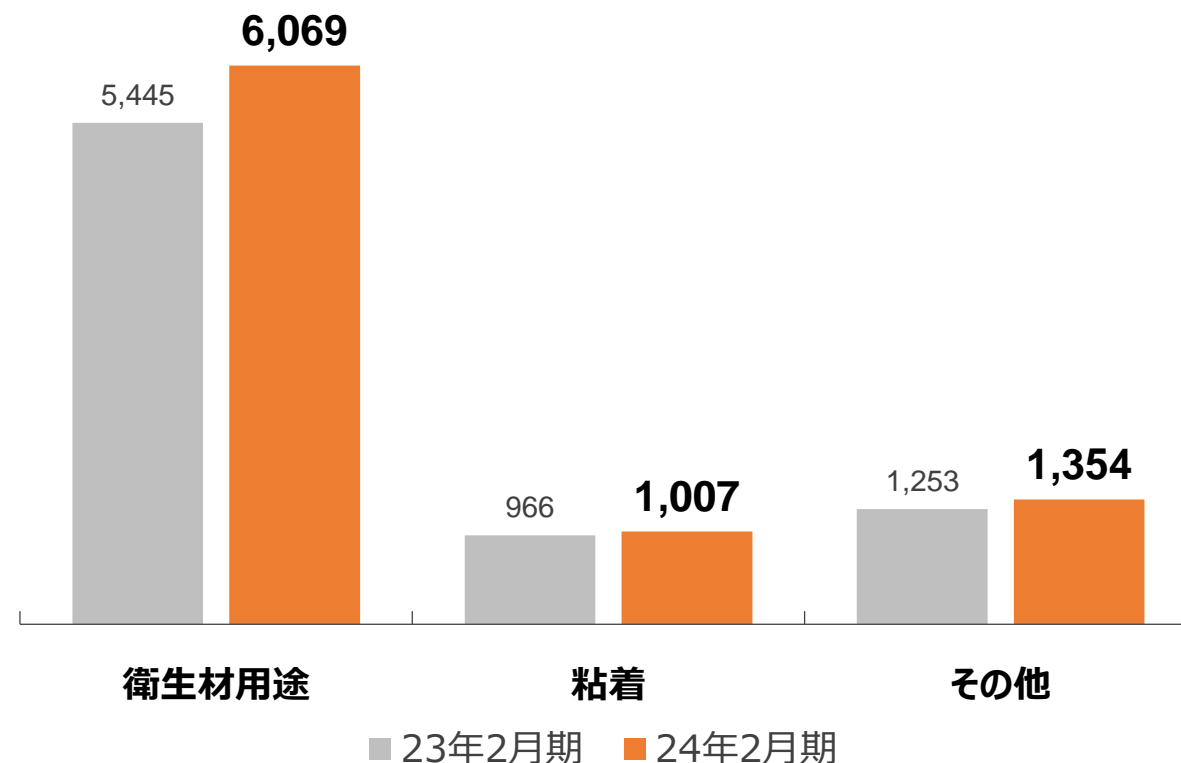
（単位：百万円）

➤ 衛生材用途

主要エリアでの紙おむつ用途が好調

➤ 粘着

価格是正と東南/南アジアでの販売数量増加



【売上高】前年比**3.1%増**（3,909百万円）

【売上数量】前年比**4.5%減**

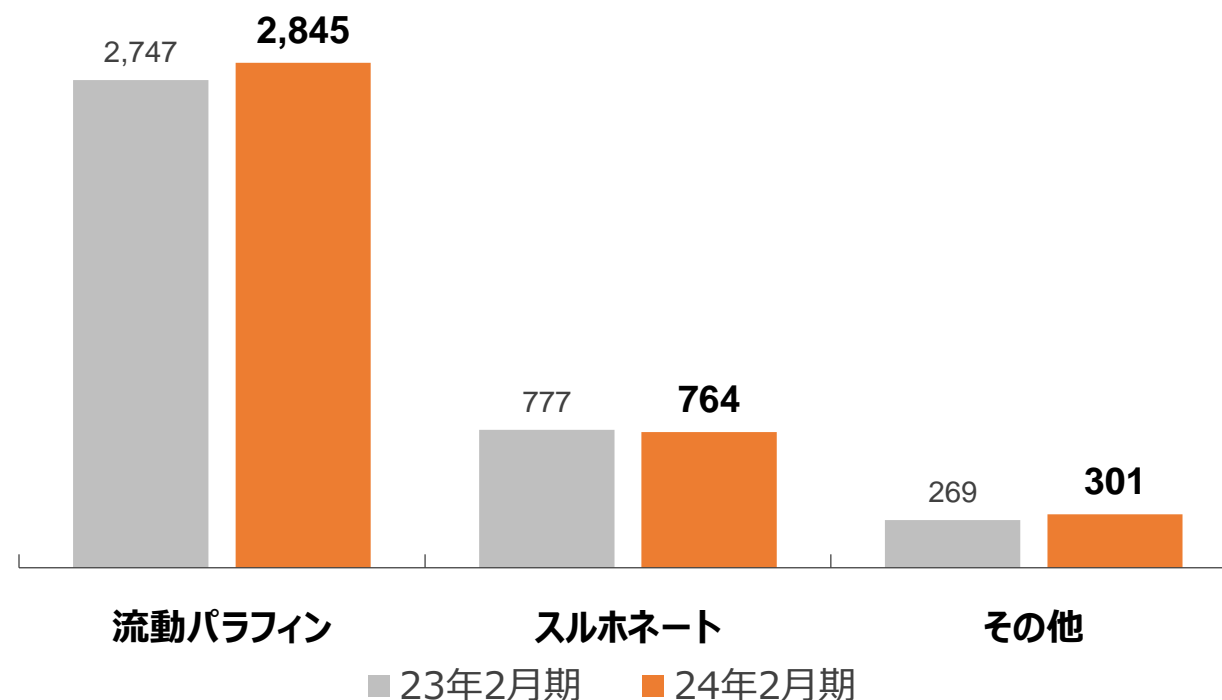
（単位：百万円）

➤流動パラフィン

ポリスチレン可塑剤用途の数量は減少したものの、
販売価格の是正により売上高は微増

➤スルホネート

ほぼ前年並みに推移



【売上高】前年比**21.5%減**（1,337百万円）

【売上数量】前年比**12.4%減**

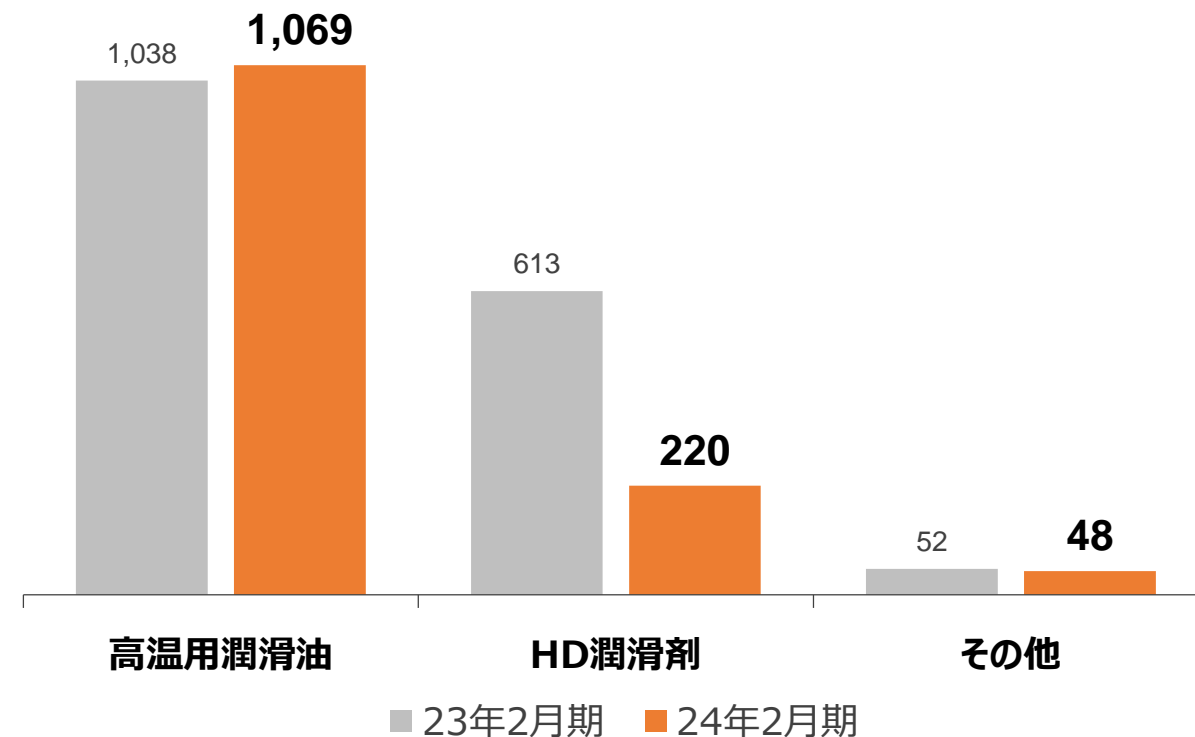
（単位：百万円）

➤ 高温用潤滑油

価格是正と年度後半の回復基調による増収

➤ ハードディスク表面潤滑剤

データセンター投資の冷え込みの影響による減収



売上高

- 自動車生産の回復
- 販売価格の是正

営業利益

- 販売価格の是正による売上総利益の確保
- 高付加価値製品の出荷増
- 販管費の抑制

当期純利益

- 関連会社の完全子会社化に伴う特別利益の計上
- 為替差益の発生

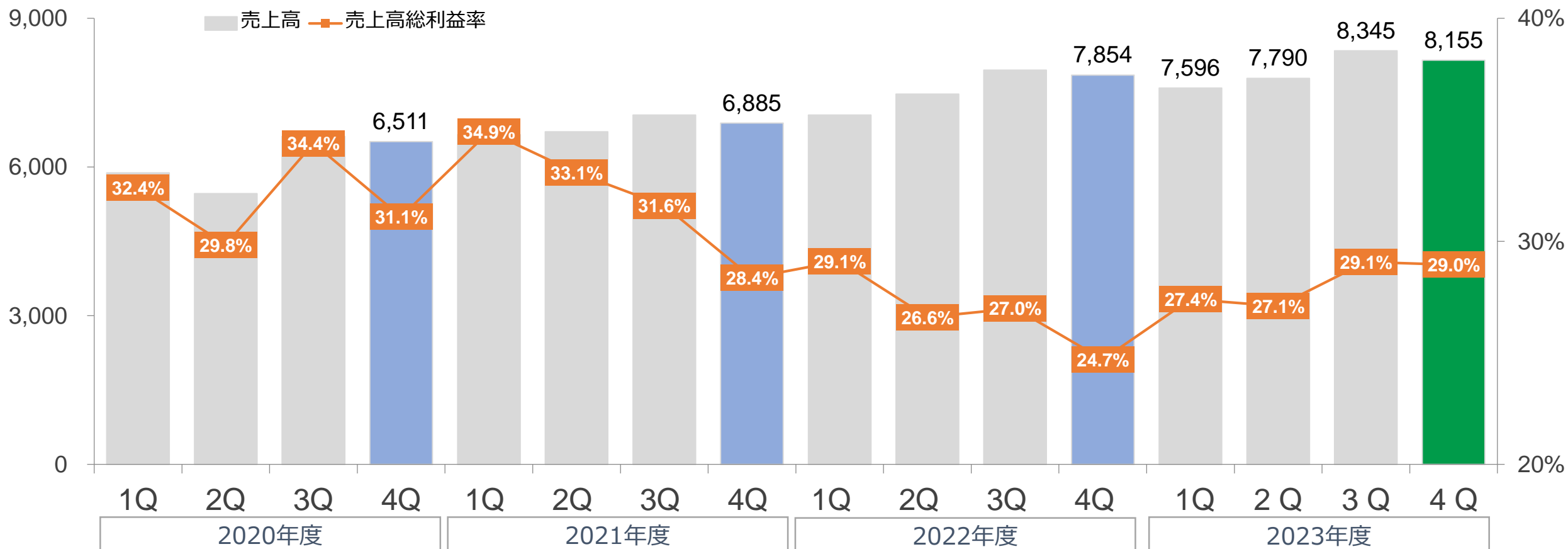
(単位：百万円)	23年2月期	24年2月期	前期比
売上高	30,333	31,886	+5.1%
売上総利益	8,129	8,984	+10.5%
販管費	7,606	7,759	+2.0%
(研究開発費)	(1,246)	(1,321)	+6.0%
営業利益	523	1,225	+134.2%
営業外損益	523	601	+15.0%
経常利益	1,046	1,826	+74.6%
税引前利益	1,046	2,055	+96.5%
当期純利益 ※	615	1,283	+108.8%

※ 親会社株主に帰属する当期純利益, 以下同様

売上高および売上高総利益率の推移

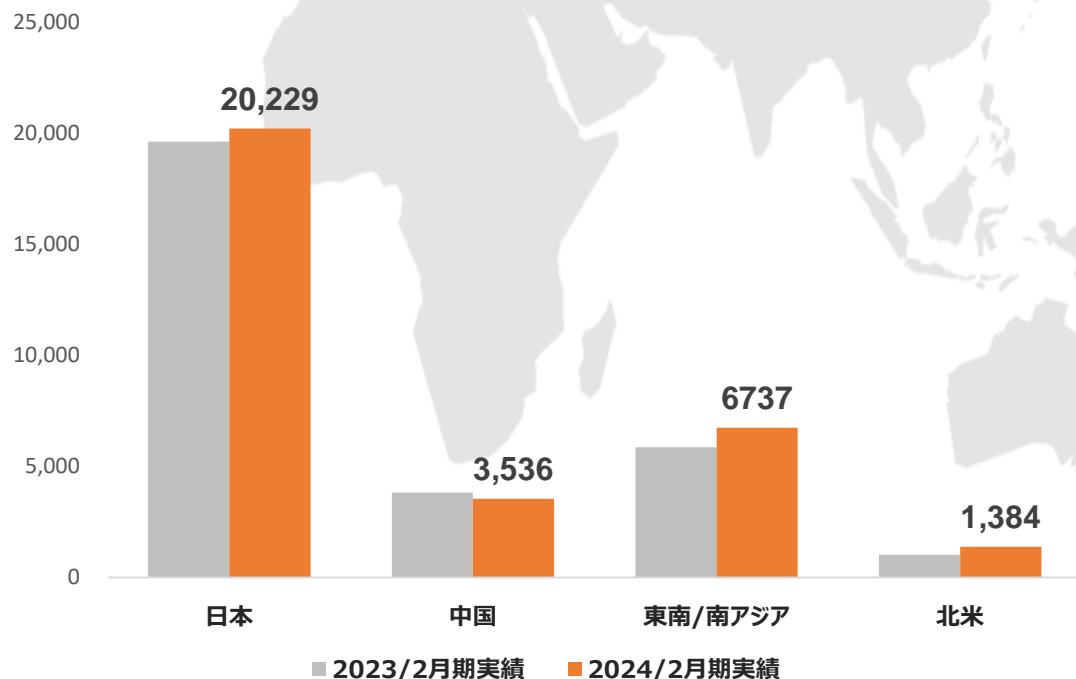
価格是正の推進と高付加価値製品の増販による利益率の回復

単位：百万円

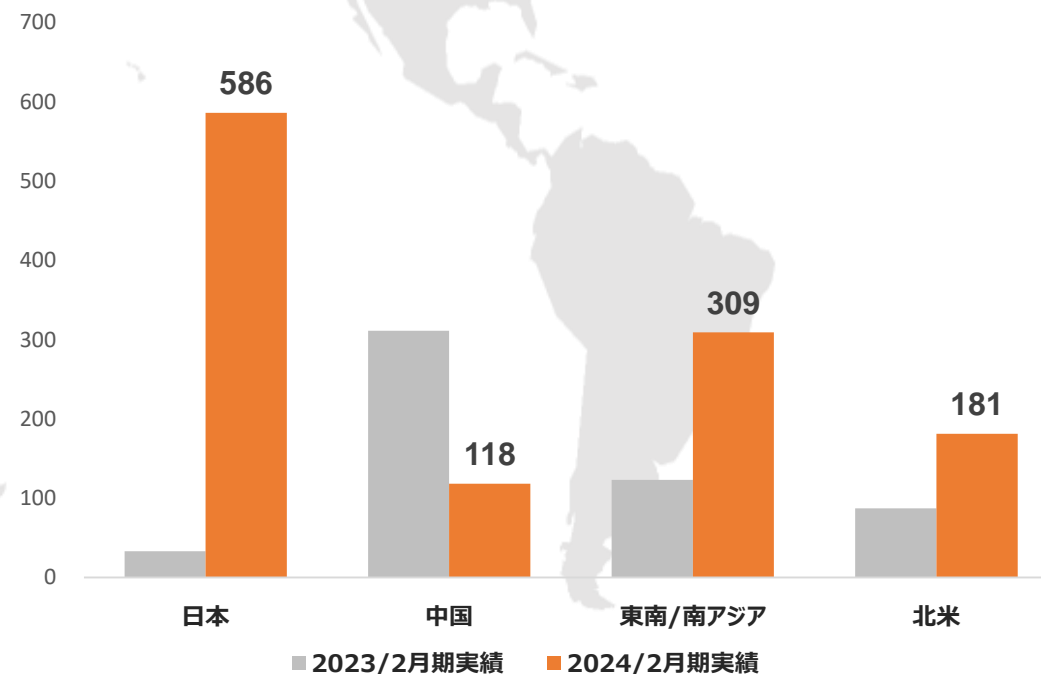


【日 本】	主要製品の販売数量が前期を上回り、価格是正も進み増収増益
【中 国】	日系自動車メーカーの稼働低下、フィルター用ホットメルト接着剤の需要減により減収減益
【東南/南アジア】	自動車生産台数の回復、ホットメルト接着剤の販売拡大により増収増益
【北 米】	少量塗布型離型剤の出荷増加により増収増益

売上高



営業利益



有形固定資産

- 建物及び構築物 +1,119
- 機械装置等 +498
- 土地 +293
- 建設仮勘定 ▲458

無形固定資産

- のれん +451

有利子負債

- 短期借入金 +659
- 長期借入金 +2,593

(単位：百万円)		増減		増減	
現預金	5,636	+1,380	仕入債務	4,908	▲236
売上債権	7,942	+346	有利子負債	6,105	+3,252
棚卸資産	6,687	+381	その他流動負債	1,912	▲162
その他	725	+72	その他固定負債	1,006	+299
流動資産計	20,989	+2,180	負債合計	13,931	+3,153
有形固定資産	10,140	+1,540	資本金・資本剰余金	4,089	▲6
無形固定資産	1,214	+634	利益剰余金	14,674	+914
投資その他	4,709	+682	自己株式	△561	+6
			包括利益累計額	1,924	+678
			非支配株主持分	2,996	+290
固定資産計	16,063	+2,856	純資産合計	23,122	+1,883
資産合計	37,053	+5,036	負債・資本合計	37,053	+5,036

(単位：百万円)

営業キャッシュフロー

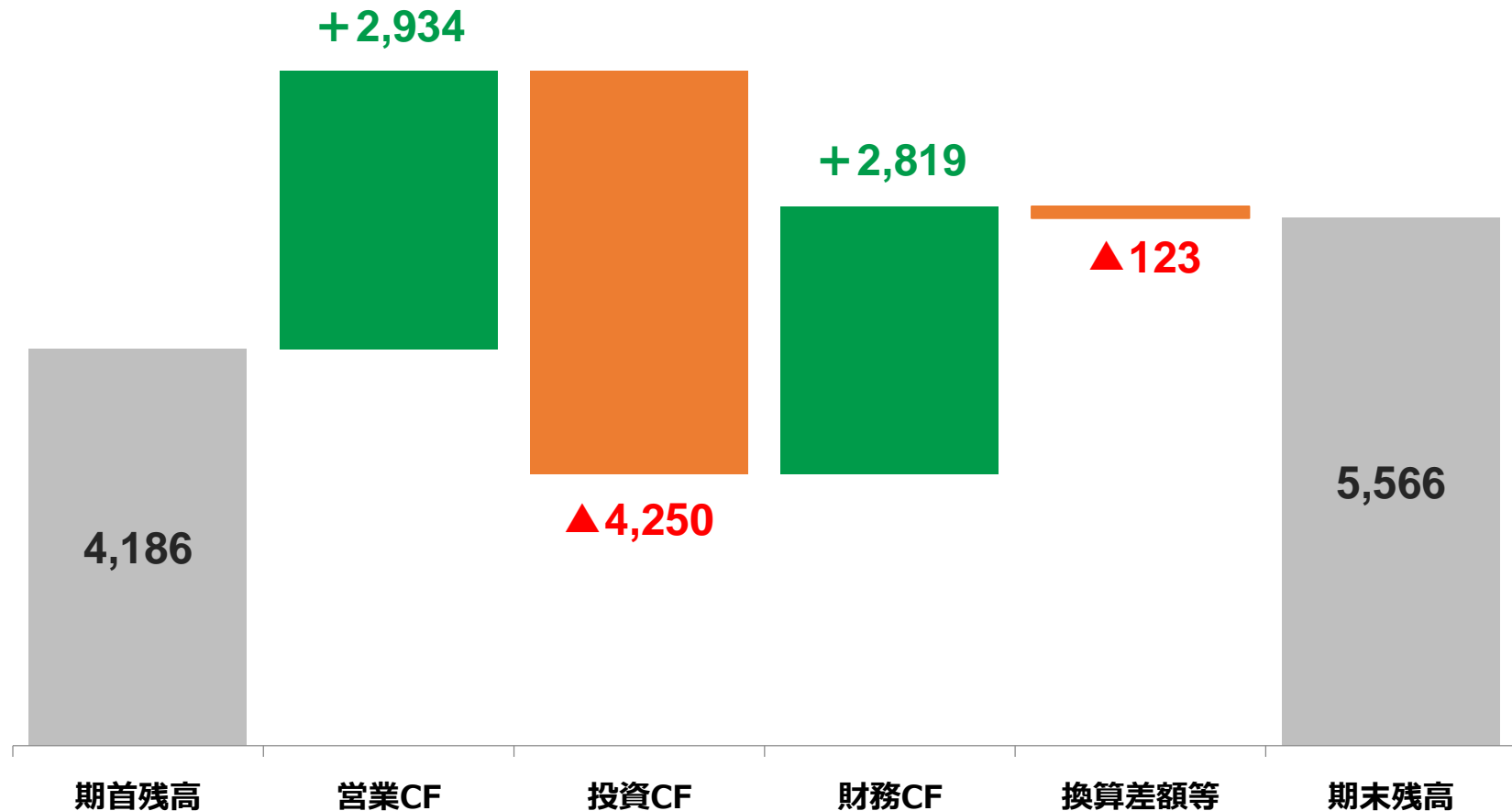
- ・ 税金等調整前当期純利益 2,055
- ・ 減価償却費 1,188
- ・ 負ののれん発生益 ▲285

投資キャッシュフロー

- ・ 有形固定資産の取得 ▲2,527
- ・ 事業譲受 ▲1,224

財務キャッシュフロー

- ・ 長期借入 3,536
- ・ 配当金 ▲369



グローバル展開の強化

- 北米における事業譲受
 - ✓ 生産拠点確保による安定供給の強化
 - ✓ 米系部品メーカーの販売拡大
- 中国における事業再編
 - ✓ 特殊潤滑油事業の効率化
 - ✓ 開発体制の強化

CROSS TECHNOLOGIES GROUP, INC.



莫莱斯柯（浙江）功能材料有限公司



株主還元

- 記念配当
- 自己株式取得

自社株式の取得

- 取得期間 2024年3月1日～2024年4月30日
- 取得株式数 80,000株（上限）
- 取得価額 100,000,000円（上限）
- 取得方法 東京証券取引所における市場買付

➤ 通期予想の前提

原油価格：97 \$/b

為替レート：145ドル/円

➤ 配当金/株（予想）

中間20円、期末25円

(単位：百万円)	24年2月期実績	25年2月期予想	前期比
売上高	31,886	34,000	6.6%
営業利益	1,225	1,500	22.5%
経常利益	1,826	1,850	1.3%
当期純利益	1,283	1,050	▲18.2%

中期経営計画

地球にやさしいオンリーワンを世界に届けるMorescoグループ
2024-2026年度

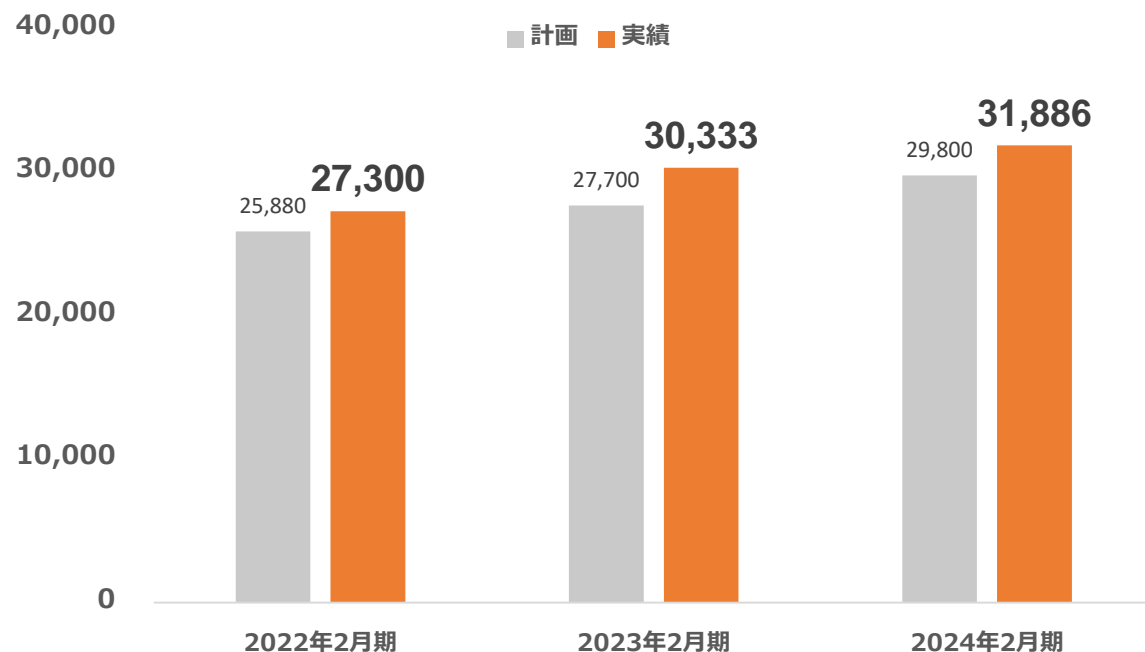
株式会社 Moresco
2024年2月

【売上高】 自動車生産台数の回復による出荷量の増加のほか、円安の影響により増収

【営業利益】 原材料価格高騰と販売価格上昇とのタイムラグの影響、データセンター投資の低迷等により一定水準に留まる

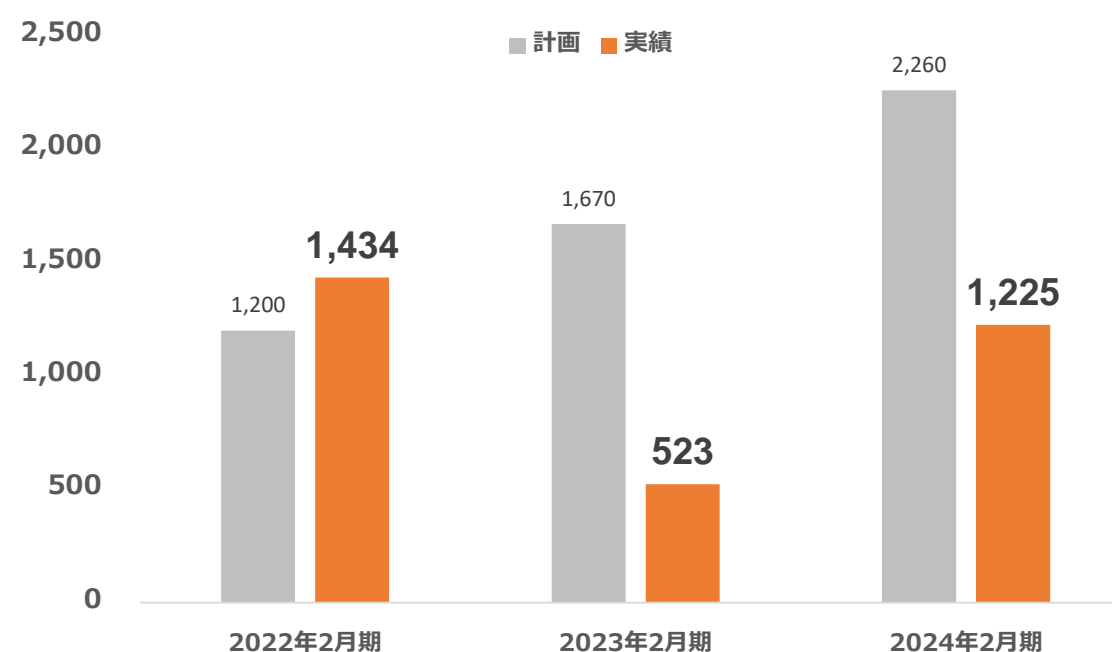
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



第9次中期経営計画の総括-主な成果と継続課題

中期経営方針

主な成果

継続課題

1) 持続可能社会の実現への貢献 (サステナビリティ経営の推進)	<ul style="list-style-type: none"> MORESCO Green SX(以下「MGS」)製品※の認定制度開始 サステナビリティ推進室の新設および委員会設置 	<ul style="list-style-type: none"> MORESCO Green SX製品の拡大 環境対応をテーマとした製品開発の加速
2) 事業の付加価値向上と新事業分野の開拓	<ul style="list-style-type: none"> 主要分野での価格是正の進展 全社横断型開発体制の強化 産学外部機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 価格是正活動の継続による対象製品の拡大 新事業分野における研究成果のビジネス化
3) 製造原価の低減と品質向上	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化設備の更新、システム自動化（品質管理）等 	<ul style="list-style-type: none"> 国内ノウハウの海外への展開
4) 管理部門の業務効率の改善	<ul style="list-style-type: none"> DX活用による働き方改革（多様な働き方の選択） 	<ul style="list-style-type: none"> DX/AI技術の活用等による一層の業務効率化
5) コンプライアンス強化	<ul style="list-style-type: none"> 社内研修制度の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルなコンプライアンス体制の構築

海外戦略

■ 中国・北米および新興国における事業展開の推進	<ul style="list-style-type: none"> 当社の海外主要3エリア（東南/南アジア、中国、北米）での担当執行役員制の導入 中国事業の再編 買収による北米潤滑油事業の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 中国事業の収益性の向上 北米・メキシコにおける事業拡大
--------------------------	--	--

資本戦略

■ 資本効率を高めるROIC経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ROICプロジェクトチームの立ち上げと社内意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ROIC指標の活用等
---------------------	--	--

※ 原料調達から廃棄までのライフサイクル全体を評価し、マテリアリティ（重要課題）への貢献要素が特に大きい製品を「MORESCO Green SX」として認定（ご参照）<https://www.moresco.co.jp/sustainability/sdgs.php>

第10次中期経営計画のテーマ

「持続可能な社会の実現」と「事業の付加価値の向上」の両立

基本方針

主要な取り組み

サステナビリティ経営の推進

- ・カーボンニュートラルの推進・MGS製品売上比率の引き上げ
- ・環境負荷低減への取り組み

製品ポートフォリオの高度化

- ・高付加価値製品の開発と売上拡大・サーキュラーエコノミーへの対応

次世代事業の創出

- ・ライフサイエンス事業への注力・非石化材料創出技術の開発
- ・ペロブスカイト太陽電池関連の事業推進

業務プロセスの革新

- ・生産プロセスの革新・DX化の推進・物流問題への対応

資本収益性の向上

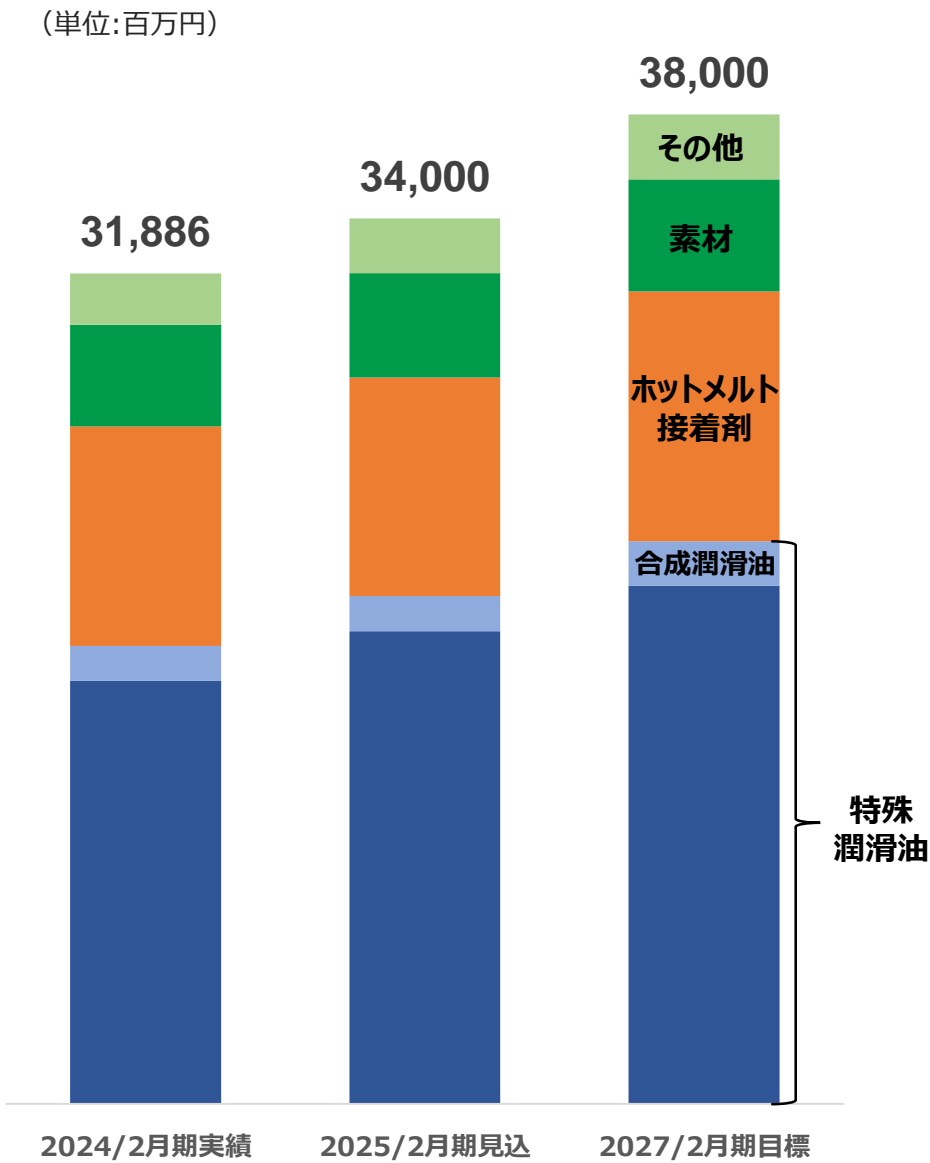
- ・PBR改善に向けた施策・株主還元・人的資本経営の推進・IR活動の強化

単位:百万円

		2024年2月期 実績	2025年2月期 予想	2027年2月期 計画
業績	売上高	31,886	34,000	38,000
	売上高成長率	-	7%	6%
	営業利益	1,225	1,500	2,700
	営業利益率	3.8%	4%	7%
	経常利益	1,826	1,850	3,000
資本効率性	ROE	6.6%	-	8%水準
	連結配当性向	32.4%	39.3%	30%以上
非財務目標	MGS製品の売上比率	29% (2022年実績)	-	40%
	CO ₂ 排出量削減率 *2013年対比	34% (2022年実績)	-	-

第10次中期経営計画-部門別売上高

部門	2024年2月期 実績	2025年2月期 見込	2027年2月期 目標
特殊潤滑油	17,584	19,500	21,600
(うち合成潤滑油)	(1,337)	(1,350)	(1,700)
ホットメルト接着剤	8, 430	8,400	9,600
素材	3,909	4,000	4,300
その他 (子会社含む)	1,963	2,100	2,500
合 計	31,886	34,000	38,000



部門別重点施策

部門	日本	海外
特殊潤滑油 (■ 合成潤滑油)	<div>➢ サークュラーエコノミーへの原料面からの取り組み拡大、バイオマス材料・再生資源の一層の活用</div> <div>■ 半導体製造(前工程)および検査装置等へのフッ素代替潤滑油の開発と販売</div> <div>■ 次世代データセンター向け、ハードディスクドライブ潤滑油の開発</div>	<div>➢ ダイカスト油剤分野で成長が期待される新エネルギー車市場の需要取込み</div> <div>➢ 北米における主要材料(シリコン)の自社調達、他拠点への供給等シナジー効果の実現</div> <div>■ ADE関連製品の海外展開を加速</div>
ホットメルト 接着剤	<div>➢ 価格是正の推進および製品統廃合による生産効率の最適化</div> <div>➢ リサイクル事業への参画や医療用途への展開</div>	<div>➢ 海外拠点における営業活動の活性化と高付加価値製品の拡販による収益性の向上</div>
素材	<div>➢ 流動パラフィンの化粧品や医療分野での用途展開</div> <div>➢ スルホネートの販売拡大と環境対応に向けた生産方法の見直し</div>	<div>➢ スルホネートの海外展開を加速</div>
その他 (子会社含む)	<div>➢ ペロブスカイト太陽電池および電子ペーパー向けの封止材の開発</div> <div>➢ OPV（有機薄膜太陽電池）については高性能な材料開発を推進</div> <div>➢ 環境保全に貢献する廃水処理・洗浄(設備と周辺製品)関連商品の拡大</div> <div>➢ 自動車用ケミカル製品および冷熱媒体製品における環境負荷軽減の追求</div>	

継続的にグローバル体制を強化

・地域ごとR&D機能の強化 ・現地顧客への迅速な対応 ・中国新工場の操業早期安定化 ・メキシコ法人設立検討と事業拡大

➤ 成長戦略と資本・財務戦略の両輪で進め、「資本収益性の向上」を実現する

成長戦略

サステナビリティ経営の推進/製品ポートフォリオの高度化/次世代事業の創出

- 高付加価値製品であるMGS製品の開発および販売
- 製品ポートフォリオ高度化の推進
- ライフサイエンス事業におけるナノエマルジョン製品の上市、オートファジー活性化薬の導出
- 東南/南アジア・北米・中国を極とした海外成長市場の事業拡大

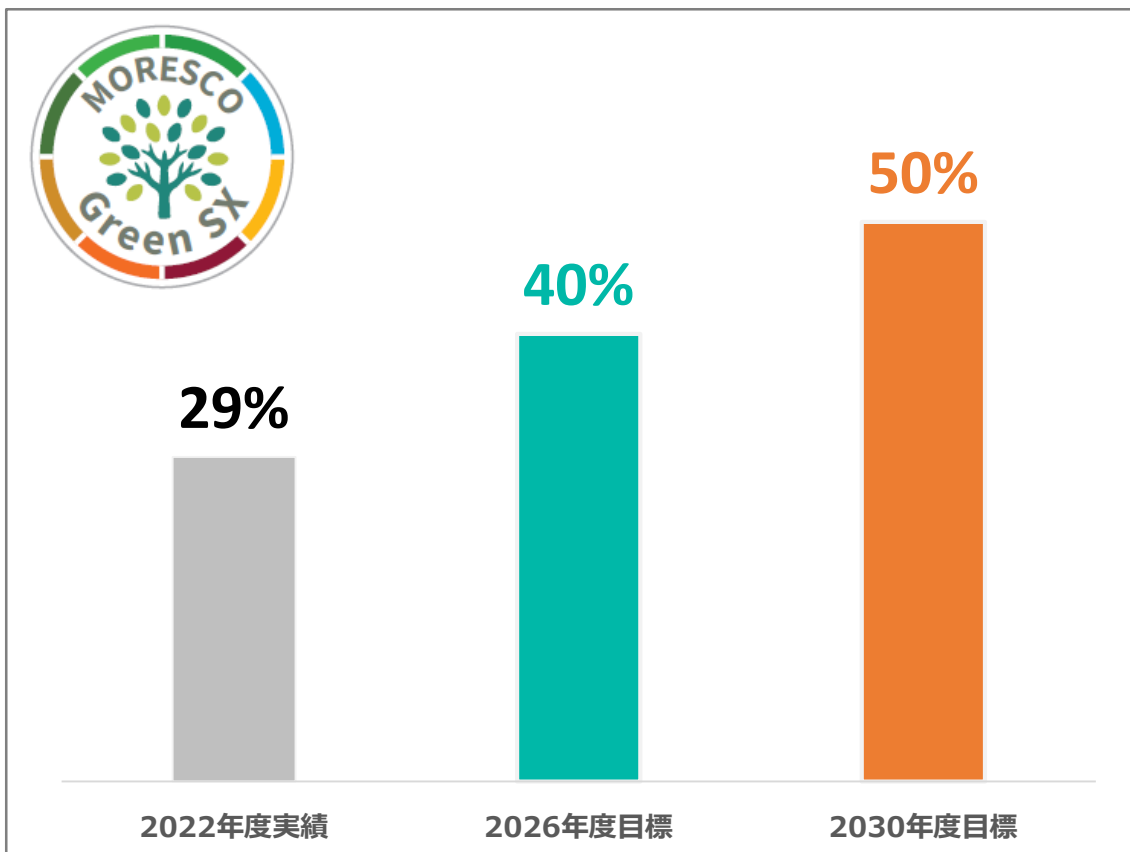
資本・財務戦略

収益性改善施策の推進/株主還元/人的資本経営/IR活動の強化

- 各事業部門の収益性改善に繋がる施策の推進（ROIC指標の活用等）
- 株主還元を経営上の重要課題と位置づけ、連結配当性向30%以上を目指した配当政策の実施
- 人的資本経営の推進
- IR情報の充実と投資家との積極的な対話の実施

- 2030年目標の達成に向けて、既存製品の改良、新製品の開発の取り組みを推進
- 付加価値の高いMORESCO Green SX製品の売上拡大により製品ポートフォリオの高度化を進める

売上比率目標



代表製品

水溶性少量塗布型離型剤
グラフェスMQシリーズ

省エネルギー

環境保全

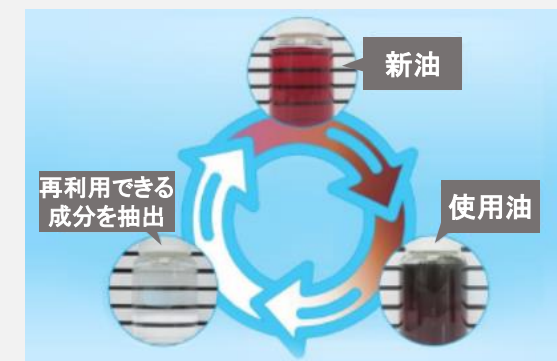
作業環境改善



水-グリコール系難燃性作動液
ハイドール

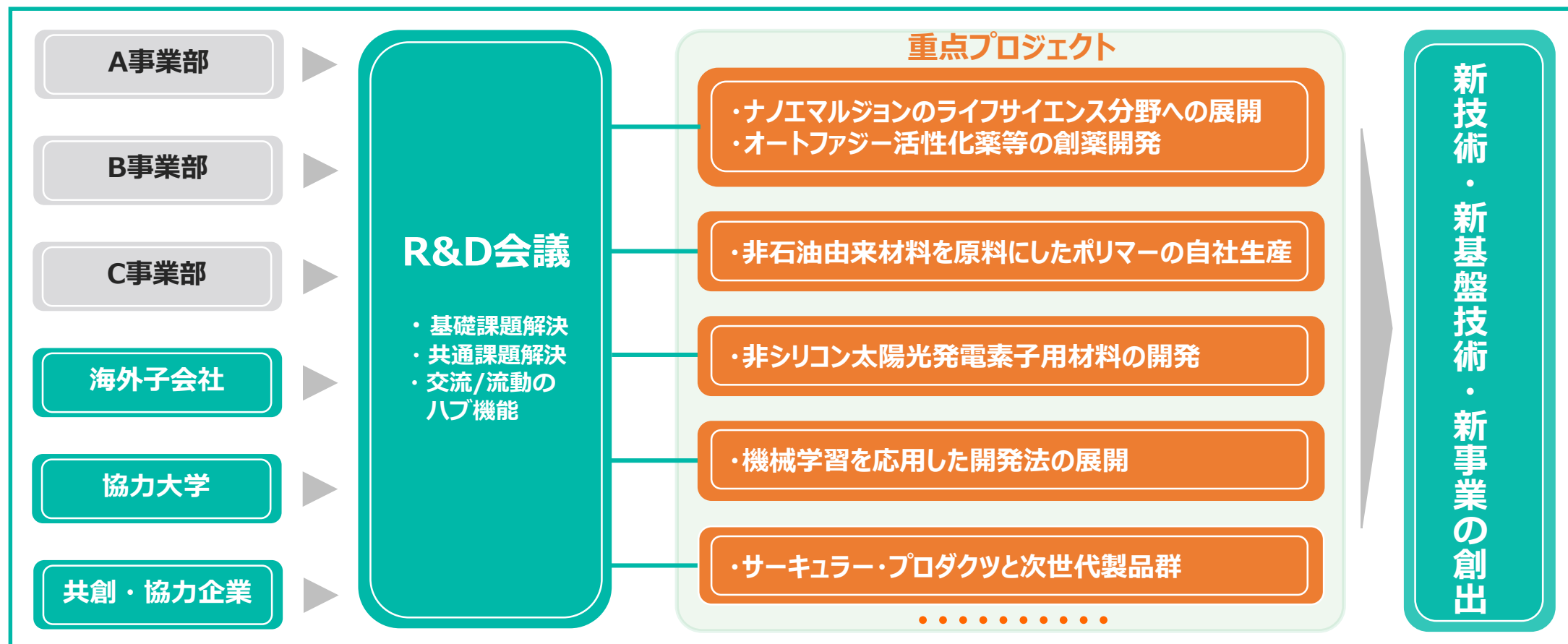
CO₂排出抑制

環境保全



- 事業部を横断し、社内および産官学と連携した開発体制を整備。重点プロジェクトは臨機応変に見直しを行う
- 全社横断的なプロジェクト MOLGADC※を推進し、成果に繋げる

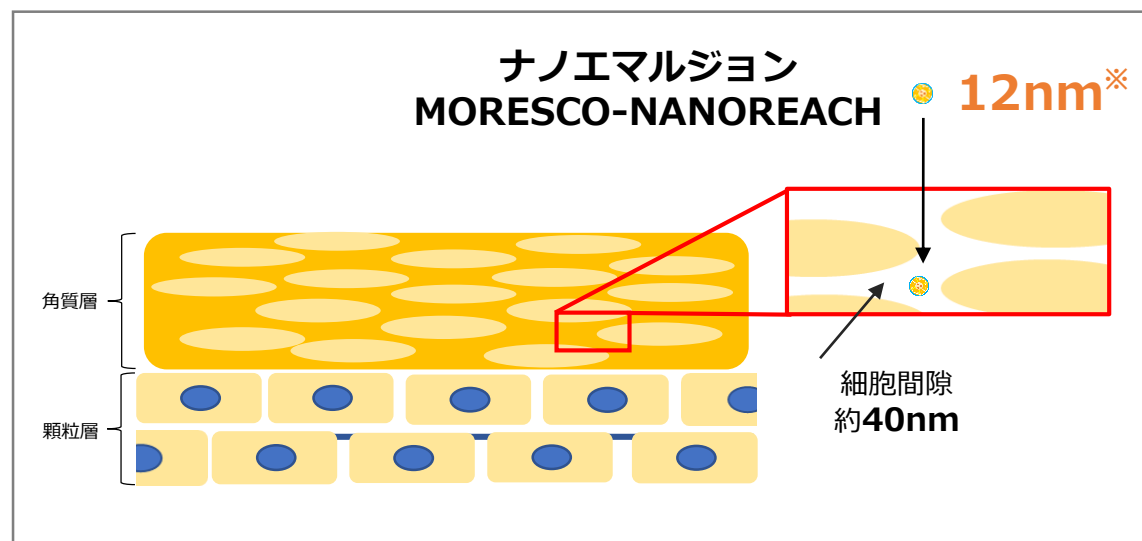
「プロジェクトMOLGADC」の全体像



※当初5つの重点プロジェクトの頭文字から命名。現在 8 つまで拡大

ナノエマルジョンの商品化

- 大手化粧品メーカーの採用に応じた量産体制の整備
- CBD(カンナビジオール)内包ナノエマルジョンの開発
- ナノエマルジョン配合の自社化粧品の開発



※ nm : ナノメートル (nanometer) 。10-9メートル (m) = 10億分の1メートル

創薬分野での特許出願

- 2020年7月に大学発ベンチャー(株)AutoPhagyGOに出資し、共同研究開発を開始
- 2024年2月末にオートファジー促進剤に関する第一弾特許を出願



- オートファジー研究とは、老化に関連する様々な現象や疾患の予防・治療へつながる研究です
- 共同研究では、生活習慣病改善を期待できるオートファジーを対象とした創薬活動を進めています
- 薬理活性が向上した重要化合物の取得を目指しています

- 地球温暖化係数の高いメタンを原料とした非石化由来の炭化水素を合成する技術の確立を推し進める
- 2026年には年間10トンのバイオギ酸を生産し、将来的には国産化および非石化材料の自社調達を目指す

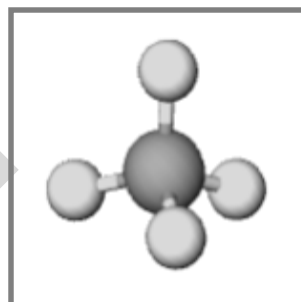
北興バイオガスプラント



2024年4月撮影

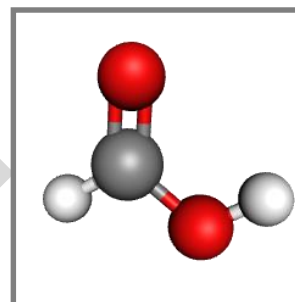
メタン発酵

バイオガス



化学反応
(光+空気+触媒)

バイオギ酸

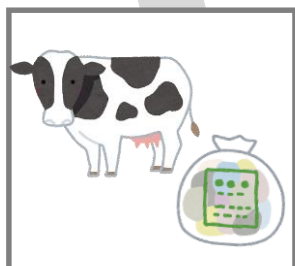


当社製品の
原料としての
活用を目指す

バイオポリマー(仮称)



牛の排泄物・生ごみ等



当社は、「興部町(北海道)カーボンニュートラル イノベーションコンソーシアム (OCNIC)」に参加し、当社の合成・精製技術を活用して資源循環、バイオガスプラントの普及を目指すとともに、バイオギ酸の生産性向上に貢献します

サイレージ(牧草)



- 桐蔭横浜大学の宮坂教授が立ち上げたコンソーシアムに参画。2026年以内のペロブスカイト太陽電池の実用化を目指し、高機能な封止材で貢献

コンソーシアムに参画

コンソーシアム

ペクセル・テクノロジーズ
(代表：宮坂教授)

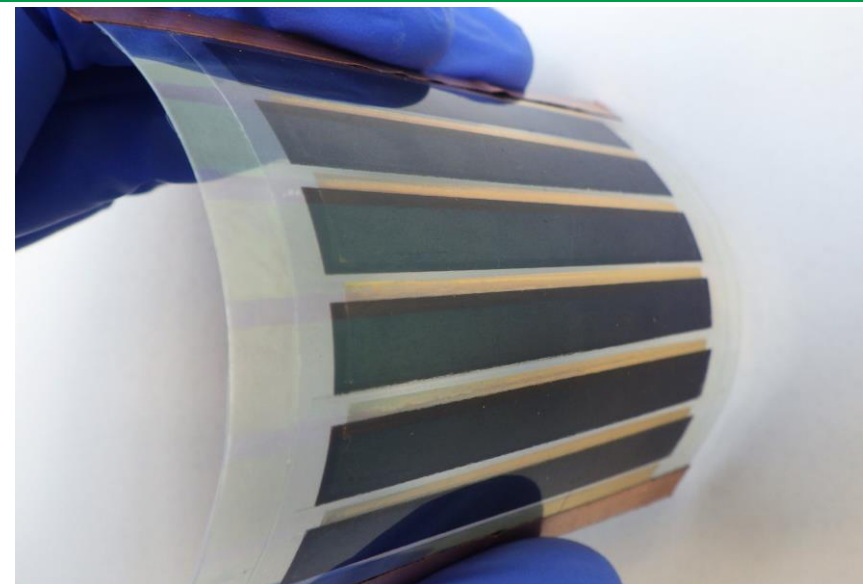
株式会社 MORESCO

株式会社 マクニカ

株式会社 麗光

三菱ケミカル 株式会社

次世代太陽電池「ペロブスカイト」試作品



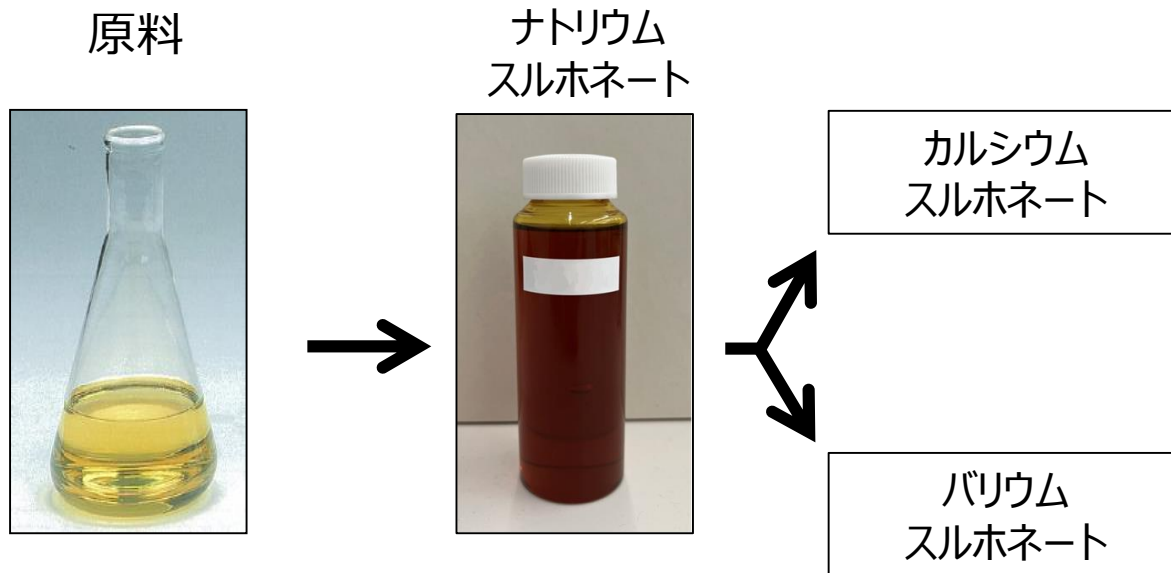
(出所：桐蔭横浜大学)

当社封止材の特徴

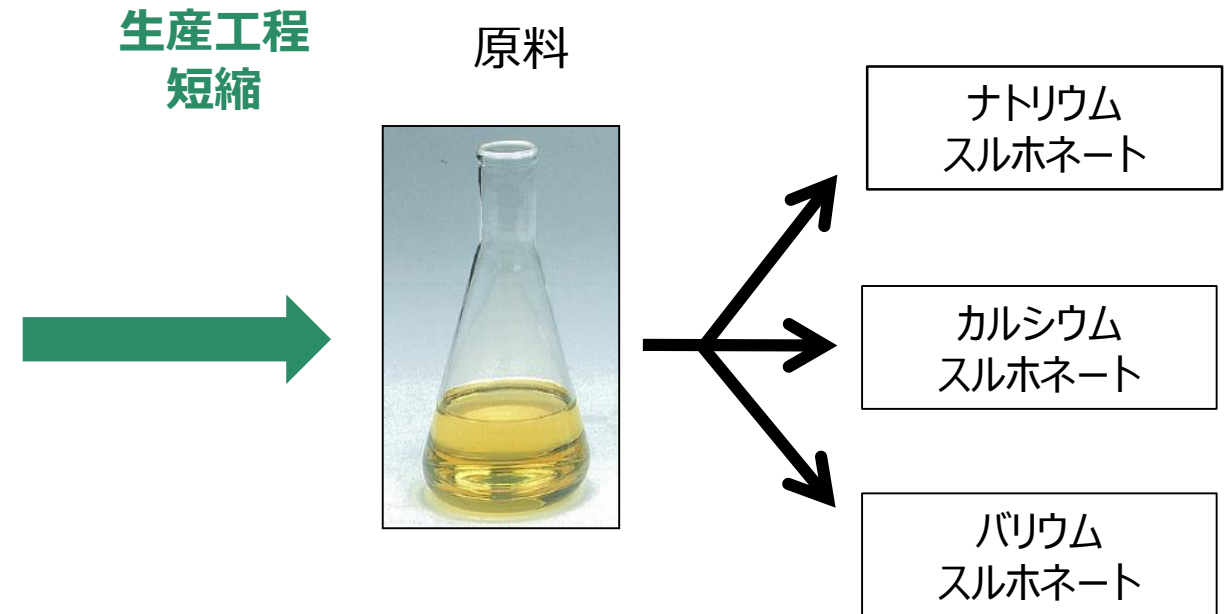
1. 直接貼り合わせてもペロブスカイト素子にダメージを与えない
2. 基材に貼り合わせるだけで優れた密着性を発揮(加熱やUV処理が不要)

- 生産工程の短縮化、工業廃水および産業廃棄物の低減等に繋がる新たな製造プロセスを開発

従来の製造方法



新たな製造方法

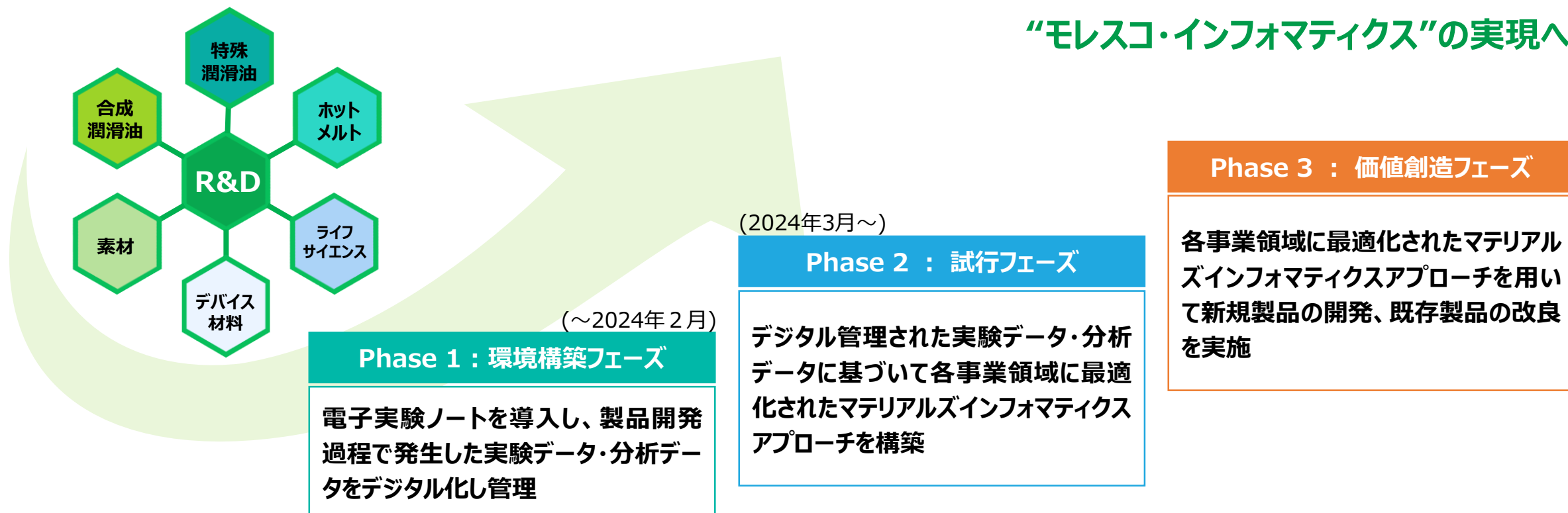


工業排水&産業廃棄物の低減

- R&D部門を基軸に事業部門間を横断し、MORESCOの材料開発プロセスを革新する
- データ駆動型のアプローチを取り入れることで、製品の開発・改良を迅速かつ効率的に行う

MORESCOだからできる研究開発DXのかたち

“モレスコ・インフォマティクス”の実現へ





- この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点における当社の判断に基づくものであり、今後、予告なしに変更することがあります。
- 本資料記載の業績見通しや目標数値のみに全面的に依存して、投資判断を下すことによるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。
- なお、当資料を無断で複写複製、配布することを禁じます。